

《外国語活動》

主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図る児童の育成 ～体験的な活動の設定を通して～

那覇市立真嘉比小学校教諭

鵜澤 由紀子

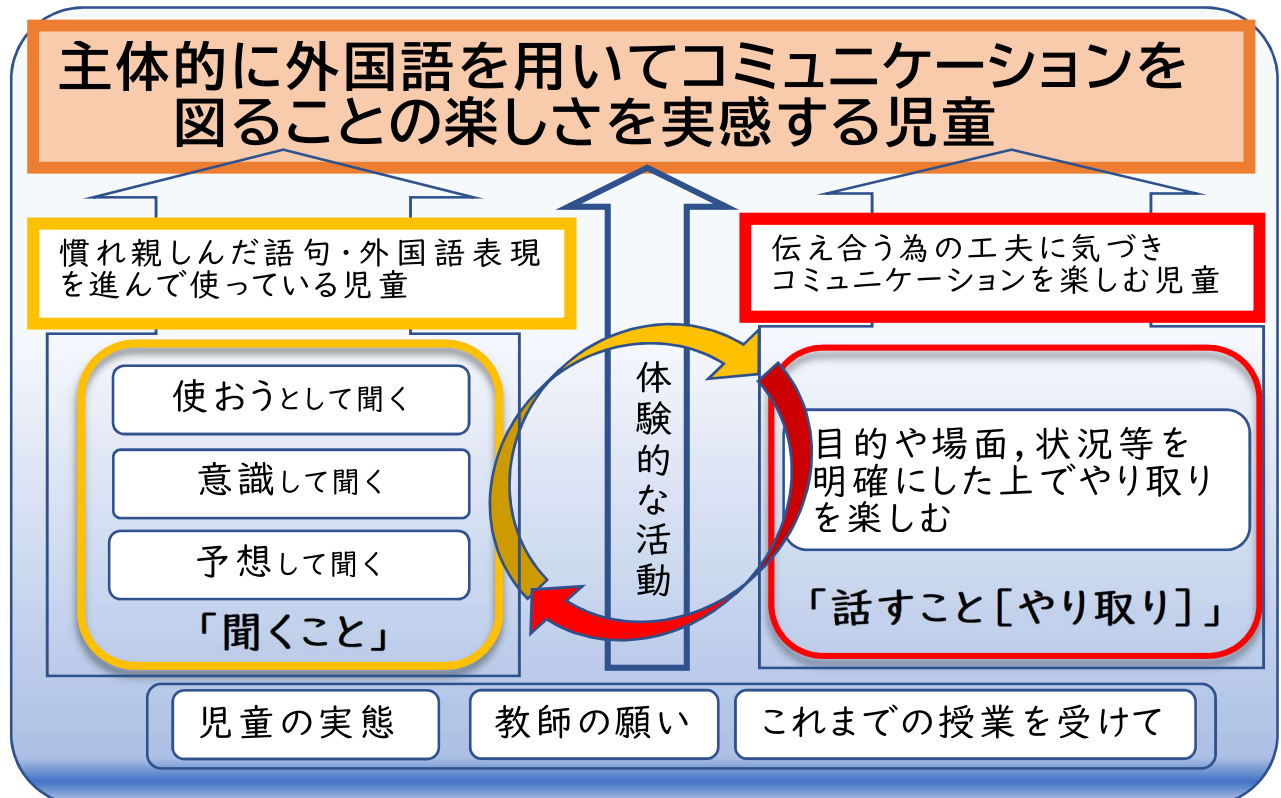
〈研究の概要〉

今年度から、中学年に外国語活動が導入され、英語の目標として「聞くこと」「話すこと[やり取り]」「発表」の三つの領域が設定された。中学年の外国語活動で、児童は初めて外国語に出合うことになる。「聞くこと」「話すこと」の言語活動を通して音声面を中心に外国語に慣れ親しませることが重要であり、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成することが求められている。

本研究では、これまで高学年で行ってきた外国語表現に慣れ親しませる活動を中学年でも引き続き十分に行う。それに加えて、コミュニケーションに繋げていく工夫と目的や場面、状況等を明確にした上でやり取りを楽しむ活動を易しいものから段階的に毎時間行う。そうすることで児童が話すことに自信を持ち、より充実した言語活動が出来ると考え、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図る児童の育成について検証を行った。

その結果、「聞くこと」に関して視点を持たせた活動を設定することで児童は楽しみながら言葉と出合い、外国語表現を理解し慣れ親しむことができた。また、目的や場面、状況等を明確にした上でやり取りを楽しむ体験的な活動を毎時間取り入れることで、児童は目的意識と見通しを持ち、自ら活動と関わり、話すことに自信と意欲を持つことができた。主体的に外国語を用いて、コミュニケーションを図る児童の姿が見られたと考える。

〈研究のイメージ〉



目次

I	テーマ設定の理由	41
II	研究目標	41
III	研究仮説	42
	1 基本仮説	
	2 作業仮説 (1)(2)	
IV	研究構想図	42
V	研究内容	42
	1 小学校外国語活動で育みたい資質・能力	
	2 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図る児童について	
	(1) 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図る	
	(2) 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図る児童を育成するには	
	3 体験的な活動の設定とは	
	(1) 「聞くこと」に関して視点を持たせる	
	(2) 目的や場面、状況等を明確にした上でやり取りを楽しませる	
VI	授業実践(第3学年)	45
	1 単元の概要 (単元名・単元の目標):「This is for you」	
	2 単元の評価基準	
	3 単元と評価計画	
	4 授業仮説	
	5 本時の展開	
VII	結果と考察	46
	1 作業仮説(1)の検証 【結果】【考察】	
	2 作業仮説(2)の検証 【結果】【考察】	
VIII	成果と課題	50
	1 成果	
	2 課題	

《主な参考文献》

主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図る児童の育成 ～体験的な活動の設定を通して～

那覇市立真嘉比小学校 教諭 鵜澤 由紀子

I テーマ設定の理由

現代では情報化グローバル化が加速し、変化の激しい予測困難な時代となっている。未来社会の中で生きていく子供たちは、現在以上に自国以外の人々との関わりが求められ、言語を用いて他者とコミュニケーションを図っていくことが大切である。

「小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編」（以下「外国語活動編」）では、外国語活動の目標を「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による「聞くこと」、「話すこと」の言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す」と記され、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す三つの資質・能力が示された。これまで高学年で行ってきた外国語に慣れ親しませる活動を中学年でも引き続き十分に行った上で、「聞くこと」、「話すこと」の言語活動を通して、外国語を用いて自分の本当の考えや気持ちを伝え合う言語活動を行うことが求められているのである。

本学級の外国語活動実態調査（令和2年10月実施）では、96%の児童が「外国語活動は好き」と回答しており、外国語活動を楽しんでいる様子が見られた。しかし、「自分の気持ちや考えを『英語』を使って伝えたいですか」という項目においては、「はい」と答えた児童が約75%であった。このことから、児童が実際に英語を使って気持ちを伝え合いたくなるような言語活動の場を設定し、児童が主体的にやり取りを楽しむ活動が必要であると感じた。

本研究では、外国語を用いたコミュニケーションに繋げるために外国語表現に慣れ親しませる。それを基に慣れ親しんだ外国語表現を用いて、やり取りが楽しめるように目的や場面、状況等を明確にした上で、体験的な活動を繰り返し設定していく。そうすることで、より充実した外国語活動となり、児童の意欲が高まり、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図る児童を育成できると考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図る児童を育成するために、外国語表現に慣れ親しませ、コミュニケーションへ繋げる工夫と目的や場面、状況等を明確にした上でやり取りを楽しむ体験的な活動を取り入れた授業改善を実践的に研究する。

Ⅲ 研究仮説

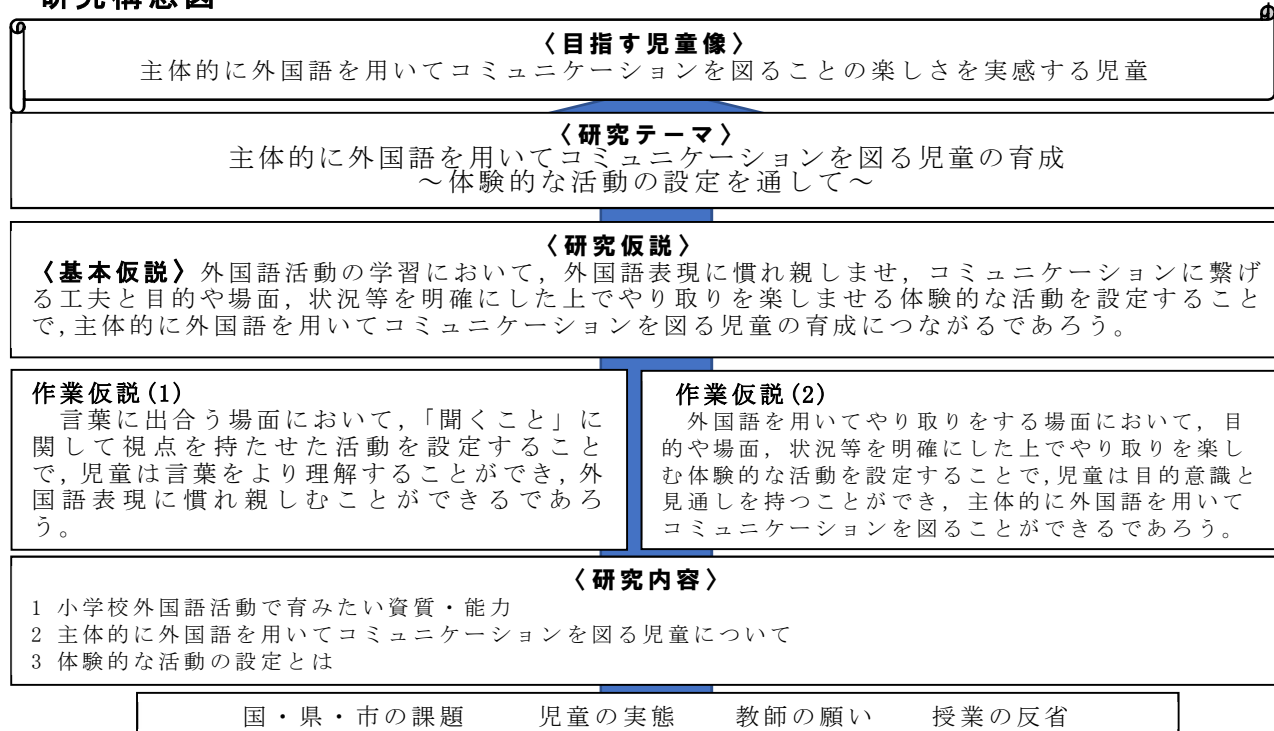
1 基本仮説

外国語活動の学習において、外国語表現に慣れ親しませ、コミュニケーションに繋げる工夫と目的や場面、状況等を明確にした上でやり取りを楽しませる体験的な活動を設定することで、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図る児童の育成に繋がるであろう。

2 作業仮説

- (1) 言葉に出合う場面において、「聞くこと」に関して視点を持たせた活動を設定することで、児童は言葉をより理解することができ、外国語表現に慣れ親しむことができるであろう。
- (2) 外国語を用いてやり取りをする場面において、目的や場面、状況等を明確にした上でやり取りを楽しむ体験的な活動を設定することで、児童は目的意識と見通しを持つことができ、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることができるであろう。

Ⅳ 研究構想図



Ⅴ 研究内容と方法

1 小学校外国語活動で育みたい資質・能力

外国語活動編では、「外国語活動の目標は、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成することである」と示し、中学年において、高学年以降の外国語学習における聞く力や話す力に繋がるものとして、育てたい三つの資質・能力「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」及び「学びに向かう力、人間性等」のそれぞれに関わる目標を掲げている。これらの資質・能力は、言語活動を通して育成されるもので

ある。

第1目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。
- (2)身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。
- (3)外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いて、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

加藤（2021）は「これまでの外国語動で多く行われていたような、練習のためのゲーム活動やリピートに終わることなく、中学年の児童の発達段階に合わせて目的・場面・状況を考えながら、自分の本当の考えや気持ちを伝え合う活動を行うことが求められているのです」と述べている。このことから、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませ、コミュニケーションに繋げていく。さらに主体的にコミュニケーションを図る児童を育成する為に、考えや気持ちを伝え合う言語活動を取り入れた体験的な活動の場を設定する。

2 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図る児童について

- (1) 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図る

「主体的にコミュニケーションを図るとは、伝えたい相手に、伝えたい内容を、伝え合う必然性のある場面において、自ら発話したり、相手の伝えたい内容を受け止めようとして聞いたりすることである」（外国語活動編）と示されている。このことから本研究では、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図るとは、動作や表情なども手掛かりに外国語を用いて相手の意図をよく理解し、自分の考えや思いを伝え合うことの楽しさを実感することと捉えた。

- (2) 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図る児童を育成するには

主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図る児童を育成するには、児童が十分にコミュニケーションに繋がる外国語表現に慣れ親しんでいることが重要である。

「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいるからこそ、自信をもって言語活動に臨めるのである。」（外国語活動編）と示されていることから、本研究では、単元を通して「聞くこと」に関して視点を持たせた体験的な活動を十分に行い、外国語表現に慣れ親しませる。そこで児童に自信や意欲を持たせ、それを基にやり取りを楽しめる体験的な活動を繰り返し設定していく。児童がその経験を積み重ねていくことで、自分の考えや思いを伝えることができ、単元を通して主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図る児童を育成していけると考える。

3 体験的な活動の設定とは

- (1) 「聞くこと」に関して視点を持たせる

小学校第3学年及び4学年の「聞くこと」の領域目標に「アゆっくりはつきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする」（外国語活動編）とある。語句を聞き取れるようにする為には、児童が言葉を何度も繰り返し聞き、まねをしながら話し、徐々に外国語表現に慣れ親しむような学びの過程が大切

だと考える。教師が視点を持たせ、繰り返し聞く体験をさせることで、児童はその言葉の音と意味を理解していく。「聞いて・まねてみよう」として行う「聞くこと」に関して視点を持たせる Step は図 1 のように考える。言葉との出会いの場面において、

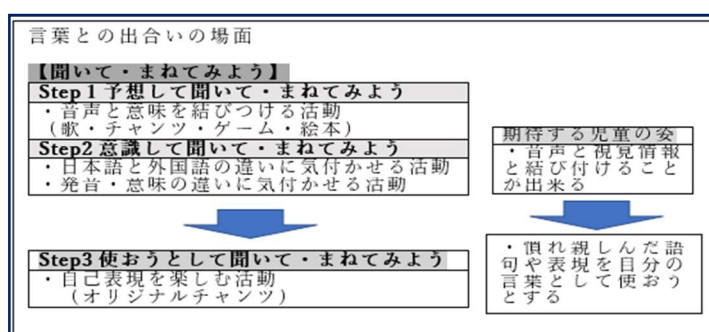


図 1 聞くことに関して視点を持たせる Step (筆者作成)

Step 1 「予想して聞いて・まねてみよう」では、語句や表現を絵やジェスチャーなどから予想させることで、言葉への印象を強める。Step 2 「意識して聞いて・まねてみよう。」では、日本語と外国語のリズムや発音、言葉の違いに気付かせる。教師が英語指導員と意識して言葉を聞かせることにより、児童はより語句や表現の理解を確かにし、認識を強める。この段階で理解した語句や表現に慣れ親しませれば、児童は、おのずと外国語表現を使いたくなると考える。そこでこれまでに覚えた外国語表現を真似るだけに留まらず、児童が自分の言葉として使う事を期待して、Step 3 「使おうとして・聞いてまねてみよう」を位置付けた。コミュニケーションを意識させることで、児童は既習表現と習った表現を結びつける。このように「聞くこと」に関して視点を持たせた活動を仕組んでいく。そうすることで、児童はより一層自分の考えや気持ちを伝える為の外国語表現に慣れ親しむことが出来ると考える。「聞いて・まねてみよう」で多様な活動を通して慣れ親しませ、「分かった」「使ってみたい」という気持ちを高めながら、段階的に「話すこと [やり取り]」の活動へ繋げていく。

(2) 目的や場面、状況等を明確にした上でやり取りを楽しませる

話すこと [やり取り] の活動では、「児童が興味・関心をもち、『伝え合う』ことへの意欲が高まるような場面設定や題材の選択を行い、活動を通して、児童が、自己理解・他者理解を深め、コミュニケーションの楽しさを実感できるように配慮する」(外国語活動編)と示されている。例えば友だちの事を知る目的の為に好きな色や食べ物、欲しい物などについてやり取りする場面を設定し、相手を配慮した活動を行う。

児童が身近で経験したことのある場面を設定し、自分の事や大切にしている友だちに対して児童がイメージしやすい簡単な事柄を教師は最終活動として提示し、児童に活動をイメージさせ、見通しを持たせる。そして「聞いて・話してみよう」のやり取りを楽しむ場面では、児童の実態に合わせて易しいものから毎時間取り入れる。取り入れ方は図 2 のように考えた。目的や場面、状況等を明確にした上で、自分の事を伝え合う活動を行わせる。話し手がジェスチャーを用いながら伝えたり、聞き手がしっかり受け止めたりしながら、自分の考えや気持ちを伝え合う為の工夫も大切にさ

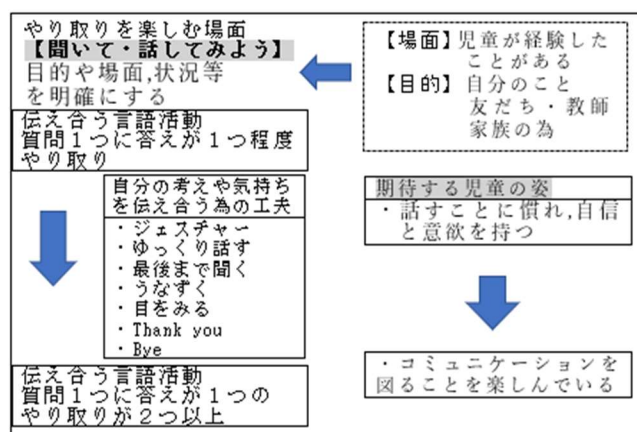


図 2 目的や場面、状況等を明確にした上でやり取りを楽しむ場面での指導と期待する児童の姿 (筆者作成)

せていく。1つの質問に対し1つの答え程度の易しいやり取りから段階的に取り組んでいくことで、児童が話すことに自信と意欲を持ち、自らコミュニケーションを楽しむ姿を目指していく。楽しさを実感すると、やり取りが増えても、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図るようになっていくと考える。本研究では、単元の活動のゴールを「友達にありがとうカードを作って送ろう」とし、友達の為に好きな形を伝え合い相手が喜ぶカードを作成し渡すことを目的にして、材料を揃える場面を設定する。

VI 授業実践（第3学年）

1 単元の概要

単元・教材名等	Let's try1 Unit7 This is for you.
内容のまとめ	「聞くこと」ア 「話すこと [やりとり]」ウ
単元の目標	知識及び技能 ○形を表す言い方や、欲しい物を “what do you want?” と尋ねたり、“～, please.” と答えたりする表現に慣れ親しむ。
思考力, 判断力, 表現等	○相手に伝わるように工夫しながら、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合う。
学びに向かう力, 人間性等	○日本と外国の文化の習慣の違いや似ているところに気づき、感謝の気持ちを伝えるカードを作りたいという思いを持って、友達と進んでコミュニケーションを図ろうとする。

2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「話すこと [やりとり]」	色や形など、身の周りの物について what do you want? や～, please. などを用いて欲しいものを尋ねたり答えたりすることに慣れ親しんでいる。	学級の友達に感謝の気持ちを伝えるカードを作るために、相手に伝わるように工夫しながら、色や形など、身の周りの物について、欲しいものを尋ねたり、答えたりして伝え合おうとしている。	学級の友達に感謝の気持ちを伝えるカードを作るために、相手に伝わるように工夫しながら、色や形などについて、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。

3 指導と評価計画（全5時間）※図1・2との関連

第1時	第2時	第3時	第4時 本時	第5時
Greeting ① あいさつ ② 天気の確認 ③ 曜日・日付				
◎友だちがどんな形が欲しいかを知りたい。	◎自分が選んだ形が言えるようにしよう。	◎色・形、欲しいものを尋ねたり答えたりしよう。	◎友だちが喜ぶカードを作る為に尋ねたり、答えたりしよう。	◎相手に伝わるように工夫しながら紹介し、友だちにカードに送ろう。
「聞いて・まねてみよう」聞くことに関する体験的な活動				
Shape game Pointing game Memory game Chant ※Step1・2	Review What and think Lucky game Chant ※Step1・2	Review Let's lesson Chant オリジナルチャンツ ※Step1・2・3	Review Chant オリジナルチャンツ ※Step1・2・3	Review Chant オリジナルチャンツ ※Step1・2・3
「聞いて・話してみよう」やり取りを楽しむ体験的な活動				
「What do you want?」 「～please」 自分の欲しい「形」をイラストやジェスチャーを使って、伝え合おう ※やり取り1回程度	「What do you want?」 「～please」 相手の欲しい「色」と「形」をイラストやジェスチャーを使って伝え合おう ※やり取り2回程度	「What color do you want?」 「～please」 「What shape do you want?」 「～please」 好きなものを伝え合おう ※やり取り3回以上	「What shape do you want?」 「Here you are」 「Sorry」 「Thank you」 ペアの為に好きな形を友だちに伝え合い揃えよう ※やり取り3回以上	作品を紹介しあう Hello Two blue bears One pink circle A rabbit This is for you ※やり取り3回以上

4 授業仮説

コミュニケーションの場面において、「聞くこと」に関して視点を持たせ、外国語表現に慣れ親しませた上でやり取りを楽しむ体験的な活動を行えば、主体的に外国語を用いたコミュニケーションを図る姿が見られるであろう。

5 本時の展開【4／5】

	学習活動	指導上の留意点 ○ 教師の手立て	評価項目（方法）
導入 (15)	1 Greeting 聞いて・真似てみよう 2 Review 3 Chant 4 Today's aim	○チャンツの台詞の色・形、などジェスチャーをつけて、リズムに合わせ歌わせる。 ○児童からのアイデアを取り入れた、オリジナル即興チャンツを提示する。	
	友だちがよろこぶありがとうカードを作るために、ほしい形をたずねたり、答えたりして伝え合おう		
展開 (25)	5 教師によるデモンストレーションを行う 聞いて・話してみよう 6 【Activity】 友達の好きな形を持っているかを聞く。 ・集めた形を使って、ありがとうカードを作成する。	○教師と全体とで外国語表現を確認する。 ○ペアで確認させ外国語表現に十分に慣れ親しませる ○よいやり取りをしている児童を紹介したり、困ったことを確認したりして、伝え合う活動に生かせるようにする。 	「話すこと [やり取り]」 【思考・判断・表現】《総》 学級の友達に感謝の気持ちを伝えるカードを作る為、色や形について、欲しいものを尋ねたり、答えたりして伝え合っている。
まとめ (5)	7 振り返り ・活動を振り返る	○今日の学習で「自分が工夫したこと」「友だちの工夫」に視点を持たせ振り返りシートに記入、発表させる	

VII 結果と考察

1 作業仮説（1）の検証

言葉に出合う場面において、「聞くこと」に関して視点を持たせた活動を設定することで、児童は言葉をより理解することができ、外国語表現に慣れ親しむことができるであろう。

【結果】

本研究では、外国語表現に慣れ親しませ、コミュニケーションに繋げていく為に「聞くこと」に関して視点を持たせる Step（図1）を基に活動を設定し、その有効性について検証した。第1，2時の新しい言葉との出会いの場面では、7つの形のカードを見せ、児童にどのような表現になるのかを予想させながら聞かせた（Step1）。児童は、ハートやダイヤモンドはカタカナから予想でき、「円は、ボールっていうのかも」「正方形はスクエアーだから、長方形はロングスクエアーじゃないかな」などと、外国語表現を予想しながら聞き、英語本来の発音と意味を楽しみながら理解する様子がみられた（図3）。

チャンツのリズムに合わせて歌を歌ったり、体で表現したりする際は、児童に毎時間異なる形を意識させる為、ワークシートに異なる形を印刷して配布した（図4※1）。デジタル教材のチャンツの音声に合わせて、自分のワークシートに印刷されている形と結び付けて、発音したり、歌ったりすることで「circleって聞いた」

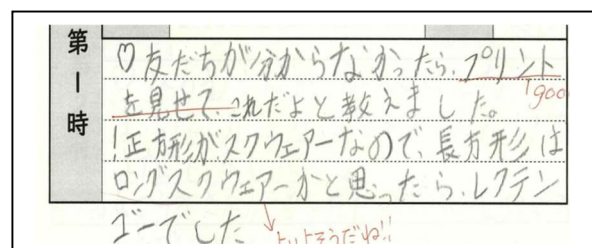


図3 予想を示している児童のワークシート

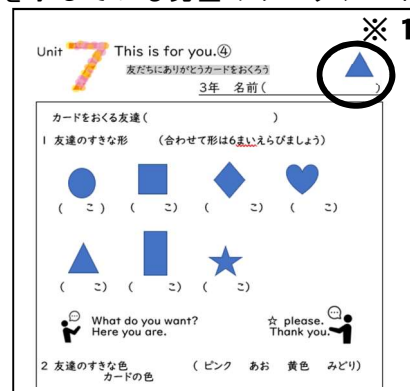


図4 形を意識させたワークシート

「triangle ってチャンツと一緒に歌えた」など、音声と視覚情報（形）を結び付けながら理解していた（Step 2）。

外国語指導員の発音やリズムを意識して聞いて真似る活動では、教師が何度も問い返し、日本語と外国語の発音を繰り返し発音させることで違いを意識させた。「英語にはリズムがある」「三角と長方形は語尾が似ている」など言葉の響きに意識した感想や「ハート」や「ダイヤモンド」の日本語との発音の違いに気づく児童もいた（図 5）。教師が意識し繰り返し聞かせることで、言葉や表現に対する理解を深めることができ、英語を使うことを楽しみながら認識していく姿が見られた（Step 2）。

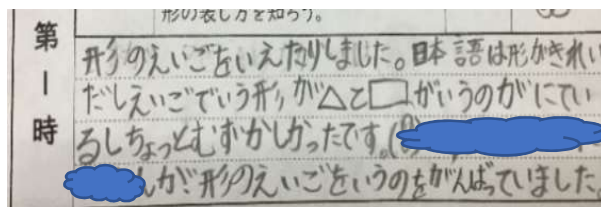
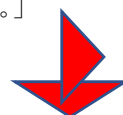


図 5 日本語と外国語の違いが書かれている児童の感想

第 3 時から、第 1, 2 時の活動に加えて、慣れ親しんだ「形」の外国語表現を使ったオリジナル即興チャンツ作りを行った（Step 3）。児童は、友だちが考える形を予想し、チャンツのリズムに合わせて発話している様子が伺えた。例えば、赤色の三角を 2 つ選んでチャンツ作りをした児童の場合、「色、形」の順で表現することには気付けたが、「数」はどう表現したらよいか悩んでいた。

C1: 「色・形の順で言えいいよね」
 C1: 「Red triangle」
 「でも三角が 2 つあるんだよね・・・」
 ～デジタル教材を聞く・英語指導員に聞いてみる～
 C2: 「分かった！ 数が先で、数・色・形の順だ」
 C1: 「Two red triangles でいいのかな。」
 ～オリジナルチャンツを作る～
 C: What do you want?



どのように言えば伝わるのかとデジタル教材を注意深く聞いたり、教師に聞いたりして、数、色、形の英語表現の順序に気付けた。さらに、児童同士でオリジナルチャンツを楽しみながらコミュニケーションに繋がる外国語表現を知る事が出来た（図 6）。その後においても、「水玉模様は英語で何ていうんだろう」「大きい星ってなんていうのだろう」と自分の言いたい言葉に繋げていこうとする姿が見られた。

図 6 外国語表現に慣れた親しむ児童の反応

アンケートの結果（図 7）、単元の学習前は「外国語活動は楽しいですか」という質問において、96%の児童が「楽しい」と答えており、その理由に「ゲームが楽しい。リズムに乗るのが楽しい。みんなでやれるから。先生に会える。」等の回答が多かった。単元終了時

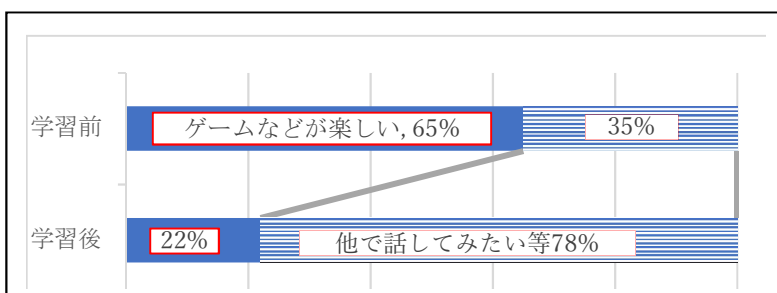


図 7 「外国語活動は楽しいですか」のアンケート結果

了時も 100%の児童が「楽しい」と回答した。その理由として「他でも英語を話してみたい。色々な言葉を知ることができる。日本語と外国語の違いがあつておもしろい。」等と回答している児童が、学習前は 35%だったのに対して、単元終了時は 78%となった。教師が言葉を予想し意識させ繰り返し聞かせることで児童は、言葉を理解し、使おうと聞いたりまねてみたりしたことで十分に慣れ親しむことができた。

【考察】

言葉に出合う場面において、単に繰り返しまねて発話させるだけでなく、絵やジェスチャーなどから予想させたり、日本語との違いに意識させたりして聞かせると、「丸はボールって言うのかな」「Triangle と Rectangle は語尾が似てるね」「Star は日本語の言い方と違うね」などと言言葉に対して興味を持つことができた。何度も問い返し意識させることで、児童は聞き取れるようになり、自ら「分かった」「使ってみたい」という気持ちへと繋がった。さらに使いたいという気持ちを持たせて聞かせることで、児童は、自己表現に対する意欲を持つことができ、外国語表現に慣れ親しむことができた。教師が Step 1 2 3 と手立てを講じ、聞く活動を何度も繰り返し行わせることで、児童は言葉に慣れ、安心して自己表現を楽しむことができた。新たに英語表現と出合い、予想、意識して聞くことで、外国語表現に慣れ親しみ、学びが広がっていく姿も見られた。これらのことから、教師が「聞くこと」に関して視点を持たせた活動を設定すると児童は、進んで言葉と関わり、外国語表現に慣れ親しむことができると考える。

2 作業仮説（2）の検証

外国語を用いてやり取りをする場面において、目的や場面、状況等を明確にした上で易しいやり取りを楽しむ体験的な活動を設定することで、児童は目的意識と見通しを持つことができ、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることができるであろう。

【結果】

本単元では、児童の発達段階に適した友だちに手紙を送り合うという児童の誰でも経験したことのある場面を設定した。友だちのために喜ぶ「ありがとうカード」を作成し渡すという目的を持たせ、児童にとって身近で簡単な形や色について外国語を用いて尋ねる活動を行った。

単元の早い段階で、児童にイメージを持たせる為に、教師が英語指導員に「ありがとうカード」を提示し、やり取りを行い、単元における目的意識を児童に持たせた。「どんなカードを作ろうかな。」「友だちはどんな

なカードを作ってくれるのかな。」など具体的に活動の見通しを持たせることで、毎時間の言語活動の意味や内容を理解し、友だちとやり取りをする時間を楽しみにする児童が増えた。

「聞いて・話してみよう」では、第1時から質問1つに答えが1つ程度の易しいやり取りから段階的に取り入れることで検証した。目的や場面、状況等を明確にした上でやり取りを楽しむ場面での指導と期待する児童の姿（図2）を基に（表1）のような言語活動を行った。第1・2時では、やり取りする目標人数を活動内容から6名と

表1 やり取りを楽しむ体験的な活動内容

第1時	「What do you want?」「～please」 欲しい「形」を伝え合う。 ※やり取り1つ	※図2との関連 質問1つに答えが1つ程度の 会話を「やり取り1つ」とする
第2時	「What do you want?」「～please」 欲しい「形」「色」を伝え合う。 ※やり取り2つ	
第3時	「What color do you want?」「～please」 「What shape do you want?」「～please」 ペアに欲しい「形」「色」を伝え合う。 ※やり取り3つ以上	自分の考えや気持ちを 伝え合う為の工夫 ・ジェスチャー ・ゆっくり話す ・最後まで聞く ・うなずく ・目を見る ・Thank you ・Bye
第4時	「What shape do you want?」「～please」 Here you are. Sorry. Thank you. Bye. ペアの為に必要な形（3種類）を集める。 ※やり取り3つ以上	
第5時	Hello. Two blue hearts. One pink circle. A rabbit. This is for you. 作品を紹介し合う。※やり取り3つ以上	

て、「少し大きい声で言えた」と自信が出てきた。第4時には「もらい方が分かった。」
「最後にバーイって少しだけ言えた」と振り返りに記述していることから、言語活動
を繰り返すことで、自信を持ち、コミュニケーションを図ることを楽しいと感じてい
ることが分かる。やり取りを楽しむ体験的な活動を設定し、毎時間繰り返し行い積み
重ねていくことで、

表2 インタビューすることは楽しい理由

単元の取り組みを通して「英語を使って友達にインタビューすることは楽しいですか」とい

習った英語表現を使うのが楽しい ・習った英語を使ったりするから ・レベルアップして、もっと話そうになれるから ・英語がどんどん話せるようになるから
自分の事が伝えられるから楽しい ・自分の分かる人と話そうと楽しいから ・英語の気持ちいを伝えられるから ・友だちと英語で話そうのが楽しいから
相手の考えや気持ちが分かるから楽しい ・相手の好きなことが分かるから ・気持ちの伝え方が分かるから

うアンケートで「楽しい」と答えた児童は学習前 69%だったのに対して、学習後は 94%となった（図 9）。外国語表現を使って伝え合う事が楽しい。自分の事を話すことが楽しい。相手の考えや気持ちが分かる事が楽しい等の理由を挙げていることから、児童は、外国語を用いて伝え合うことを楽しんでいる様子が伺える（表 2）。

【考察】

目的や場面、状況等を明確に設定することで、児童に単元のゴールは何なのか、何のためにこの活動をするのかなどを理解し、意欲を持たせることができた。また、毎時間段階的に言語活動を設定し繰り返すことで、どの児童にも「話せた」「言えた」という喜びや達成感を持たせ、慣れ親しみながら、自分の考えや気持ちなどを伝えようとする行動へと繋げていくことができた。その際に言葉だけでなく、動作や表情を手掛かりにすることで、相手の意図をよく理解し、動作を加えて話すことでより伝わることを実感し、相手とやり取りを楽しむ児童が増えた。これらのことから、やり取りをする場面において、教師が児童の実態に応じて目的や場面、状況等を明確にした上で易しいやり取りを楽しむ体験的な活動を設定し繰り返すことは、児童が活動に意欲を持ち、言葉を使うことに慣れ、自信を持つことができると言える。主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る手立てとして有効であると考ええる。

Ⅷ 成果と課題

1 成果

- (1) 「聞くこと」に関して視点を持たせた活動を設定することで、児童が楽しみながら言葉と出会い、理解することができ、外国語表現に慣れ親しむ事ができた。
- (2) 目的や場面、状況等を明確にした上で易しいやり取りを毎時間設定することで、児童が活動の目的意識や見通しを持ち、自ら活動と関わり、主体的にコミュニケーションを図り、楽しむことができた。

2 課題

- (1) 主体的にコミュニケーションを図る児童を育成するために、児童につけたい力を明確にし、意識しながら教材研究を行う。
- (2) 中学年から初めて英語に触れることを踏まえて、教科の外国語に繋げていくことを意識し、児童が楽しみながら外国語の理解を深め、達成感が味わえる言語活動を設定し、児童の興味・関心を高める継続的な指導の工夫が必要である。

《主な参考文献》

『小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編』	文部科学省	開隆堂出版	2018
『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』	文部科学省	旺文社	2017
『平成 29 年度版 小学校新学習指導要領ポイント総整理』	大城 賢	東洋出版社	2017
『The English teacher's Magazine January 2021』	加藤 拓由		2021